



遠大勵志

県高総体後期

水泳部「力泳の記録」

今年度の県高総体の大トリ、第73回県高総体水泳競技大会が、盛岡市立総合プール【長水路】にて、6月18日(金)から20日(日)に開催されました。入賞された選手の皆さんの奮闘の記録をお伝えします。

○男子 50m 自由形

2-5 高橋 佑介くん 5位 記録 25.66

○男子 100m 平泳ぎ 決勝

3-1 小田島 琉汰くん 8位 記録 1:11.07

○女子 100m バタフライ

3-6 虻川 加帆さん 4位 記録 1:14.01

2-4 小笠原 愛佳さん 8位 記録 1:17.84

○女子 200m 背泳ぎ

3-1 菊池 和花奈さん 7位 記録 3:01.42

○女子 200m 個人メドレー

3-4 鈴木 夏未さん 4位 記録 3:02.83

3-5 片方 菜々子さん 5位 記録 3:08.41

2-5 高橋 結さん 6位 記録 3:14.67

以上8名東北大会出場権獲得！

○男子 4×100m メドレーリレー

3-3 高森 雄斗くん

3-1 小田島 琉汰くん

1-4 柄谷 朋哉くん

2-5 高橋 佑介くん 8位 記録 4:31.13

○男子 4×200m フリーリレー

1-4 柄谷 朋哉くん

3-3 高森 雄斗くん

3-1 小田島 琉汰くん

2-5 高橋 佑介くん 7位 記録 9:08.94

○女子 4×100m フリーリレー

1-1 高橋 七夕さん

3-4 鈴木 夏未さん

3-1 菊池 和花奈さん

3-6 虻川 加帆さん 6位 記録 4:50.92

新型コロナの影響で、今年の東北大会は残念ながらリレー競技が実施されませんが、堂々たる入賞です！

水泳部の皆さんの

東北大会の健闘を祈ります！



放送部 全国大会へ！

第44回県高総文祭放送部門大会 兼 第68回N HK杯全国高校放送コンテスト岩手県大会が、6月7日(月)・8日(火)の両日web開催され、本校放送部の作品「私のラッキーアイテム」が創作テレビドラマ部門で最優秀賞、3-1桑島 野乃花さんがアナウンス部門で優良賞を受賞し、全国大会への切符をゲットしました！受賞された2人の生徒さんと放送部部長の3-4柴田 侑さんにインタビューにお答えいただきましたので、受賞の喜びや放送部の活動にかける思いをお伝えします。

○創作テレビドラマ部門最優秀賞

「私のラッキーアイテム」について

3-1 石川 優羽 さん

「占いやおまじない、ラッキーアイテムが大好きな主人公の女の子がある男の子と出会い、『アイテムに頼ってばかりではイケナイ!』と自分から行動を起こすというストーリーです。他の部からも役者として出演してもらい、テンポの良いお芝居をしてもらいました。提出期限まで時間がない中、ギリギリの状態で作った作品ですが、全国大会に向けてさらに中身を練り直したいと思



い

ます」

「おまじない」と言えば↑(発想貧困…)

○アナウンス部門優良賞 3-1 桑島野乃花さん

「自分で題材を決めてインタビューし、それを元に原稿を作ってアナウンスするという一つひとつの作業を、一生懸命に丁寧にやりました。『まとめる力』と『発表する力』の両方が求められる部門なので、人に何かを『伝える』ということの難しさや『伝わった』ときの達成感を感じながら取り組みました。全国に向けて、さらに磨きをかけたいと思います」



○放送部部长 3-4 柴田 侑さん

放送部の活動は基本的に個人単位なのですが、だからこそ全体を見て、場合によっては制作が遅れている部署をせっついたりする役目が部長なのかなと思います。少ない人数でも場の雰囲気大切に、皆で作上げた作品を見ると、放送部はとても良い部だなあとと思います。

放送部の3人の生徒さん、お忙しい中インタビューに応じてくださってありがとうございました。全国大会は、例年であればあの「NHK紅白歌合戦」の会場になるNHK放送センターで開催されるのですが、

今年は新型コロナの関係で、作品審査のみになるとか。それでも、全国の放送部・視聴覚委員が熱い思いを込めた作品が一堂に会します。黒北放送部の皆さんの、全国大会での活躍をみんなで応援しましょう!



岩手日報「私のアオハル」に 高屋 恵理先生登場!

岩手日報では月イチ企画で、「私のアオハル」という特集記事が掲載されています。県内外で活躍されている様々な業種の社会人にインタビューし、県内の若い人たちに向けて、自分の青春時代を語っていただくという企画です。5月には本校OBである漫画家の 三田 紀房 さん(『ドラゴン桜』)が載っていましたが、6月も「黒北つながり」(?)で、本校で公民科を教えてくださっている 高屋 恵理 先生が登場!すでに記事を読んだ生徒さんも多いと思いますが、ここで記事を一部抜粋して、高屋先生の「アオハル」に、みんなで思いをはせましょう。

【岩手日報6月15日(火)「私のアオハル」より】
「高校時代は至って普通の生徒でした。(中略)私は『面白そう』と思いながらも、どこかで二の足を踏みがちでした。そんな私に、『迷ったらやってみる』という言葉で背中を押してくれた恩師がいました。プラスでもマイナスでも、とにかくいろんな経験が宝になると。30代になった今でも、この言葉には一歩踏み出す勇気をもらっています」

高屋先生の「アオハル」いかがでしたか?「アオハル」まっただ中の生徒の皆さんも、「背中を押してくれる言葉」と出会えると良いですね!

